

第5学年「サッカー」

1. 単元の目標と評価規準

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
目標	サッカーの行い方を理解するとともに、ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをすることができるようにする。	自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。	サッカーに積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をした、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①サッカーの行い方について言ったり書いたりしている。 ②味方にパスをする、パスを受けてシュートするといったボール操作によってゲームをすることができる。 ③ボール保持者からボールを受けることができる場所に動くなどのボールを持たないときの動きによってゲームをすることができる。	①自己やチームの特徴に応じた作戦を選んでいる。 ②課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	①サッカーに積極的に取り組もうとしている。 ②ルールやマナーを守り、仲間と助け合おうとしている。 ③場の設定や用具の片付けなどで、分担された役割を果たそうとしている。 ④勝敗を受け入れようとしている。 ⑤仲間の考えや取組を認めようとしている。 ⑥場や用具の安全に気を配っている。

2. 単元の指導と評価の計画

時間	1 (導入)	2 (習得)	3 (習得)	4 (習得)	5 (活用)	6 (活用)	7 (活用)	8 (まとめ)	
0	集合、挨拶、健康観察 準備運動 単元の学習内容の確認 本時のねらいの確認 ○学習過程と1時間の流れ(場と用具の準備) ○準備片付けの仕方 補助運動のポイントを確認 ゲーム ・簡易化されたゲームの行い方を理解する。 本時の振り返り ○ワークシートの記入 ○次時の学習内容の確認	用具の準備、集合、挨拶、健康観察、準備運動 主運動につながる補助運動(ゲームにつながる運動) ◎ドリブル(ジグザグドリブル)(ドリブルおに) ◎トラップ・パス(パスアンドゴー)(ナンバリングパス) ◎1対1のボールの奪い合い ◎3対1のパス回し(とりかご) ◎シュート練習(ドリブルから)(パスから) ※これらの中から、その時間で必要なものを選んで運動をする。				本時のめあてと評価規準の確認 ボールを持たないときの動き方を意識させる		チームの作戦に合わせた動き方を中心に意識させる	
		活動①(ゲーム①) ○基本4対4のゲーム(内1名キーパー役) ○ルールの工夫を取り入れる。 ○ペアチームで互いに観察し合う 1人1台端末活用 ☆ボールのないときの動き方の確認			チーム作戦確認①・活動①(ゲーム①) ◎チーム作戦確認の時間 ・チーム作戦に対する自己の課題を把握 ○ペアチームで互いに観察し合う 1人1台端末活用 ☆作戦に対しての動き方を確認		チームの作戦を選び、動きを確認する。 サッカー大会を行う。 ○チームの作戦に合わせた動きができているか確認する。 1人1台端末活用 単元のまとめ ○単元の振り返り ○ワークシートに単元全体の振り返りを記入させる。		
		ゲーム①の振り返り ○1人1台端末を利用した話し合い活動 活動②(ゲーム②) 1人1台端末活用 ○ゲーム①の動き方を意識して行う。 本時の振り返り ☆ボールを持たないときの動き方について意識した振り返りをさせる。 ○自己の課題を振り返り、めあてをもたせる			ゲーム①の振り返り・チーム作戦確認② ○1人1台端末を利用した話し合い活動 活動②(ゲーム②) 1人1台端末活用 ○ゲーム①の動き方を意識して行う。 本時の振り返り ☆チーム作戦に対する自己や仲間の動き方について意識した振り返りをさせる。 ○自己の課題を振り返り、めあてをもたせる				
45	整理運動、片付け、健康観察、挨拶								
知・技		② (観察・動画)	③ (観察・動画)			① (観察・シート)			
思・判・表						② (観察・シート)	① (観察・シート)		
態度	③⑥ (観察・シート)	① (観察・シート)	② (観察・シート)		④ (観察・シート)	⑤ (観察・シート)			

3. 本時案①【導入場面】(1時間目／8時間)

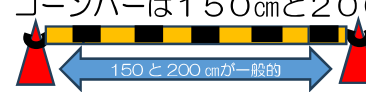

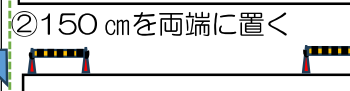
(1) 本時のねらい

- ・場の設定や用具の片づけなどで、分担された役割を果たすことができるようにする。
- ・場や用具の安全に気を配ることができるようにする。

(2) 本時の評価規準

- ・場の設定や用具の片づけなどで、分担された役割を果たそうとしている。
- ・場や用具の安全に気を配っている。 【どちらも主体的に学習に取り組む態度】

(3) 学習過程

	学習内容及び学習活動 ◆指導上の留意点	評価規準及び評価方法
はじめ 12分	<p>1 集合、挨拶、健康観察、準備運動 ・学校共通の運動を扱い、ポイントを意識するような声かけをする。</p> <p>2 単元の学習内容の確認 ○単元の目標と学習の進め方を確認する。 ・掲示物やゲームの動画などを提示し、技能到達の姿をイメージさせる。 ○学習チームを確認し、学習のきまりを理解する。 ・試しのゲームでのチーム編成を事前に行っておく。 ・試しのゲームの様子からこの単元のチーム編成を進めることを伝える。 【学習のきまりの例】 ◎用具を正しく使う。 ◎場の安全を確かめる。 ◎チームの仲間と助け合うこと ◎チームの仲間の考えや取組を認めること。 ◎審判の判定に従い、フェアプレイを大切にすること。</p> <p>3 本時のめあてと評価規準の確認(場と用具の準備) めあて：学習の進め方を知り、分担された役割を果たしたり、場の安全を確認したりしよう</p> <p>評価・場の設定や用具の片づけなどで、分担された役割を果たそうとしている。 ・場や用具の安全に気を配っている。 【どちらも主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>・本時のねらいを知り、自己の目標を立てさせる。 ・場や用具の準備の仕方を伝え、実際に準備させる。</p>	
なか 26分	<p>4 主運動につながる補助運動 ○運動のポイントを意識して補助運動をする。 【運動の例】 ※下記の中から、その時間で取組易いものを選んで運動をする。 ◎ドリブル(ジグザグドリブル)(ドリブルおに) ・ボールを優しく触る、「チョン チョン」などのキーワード使ってボールに慣れることを意識させる。 ◎トラップ・パス(パスアンドゴー)(ナンバリングパス) ・ボールの止め方は、足の裏、足の内側があることを伝え、ボールを触る瞬間に力を抜くことを意識させる。 ◎1対1のボールの取り合い ◎3対1のパス回し(とりかご) ・ボールを持っていないときに、空いているスペースに動くことを意識させる。 ◎シュート練習(ドリブルから)(パスから)</p> <p>5 試しのゲーム ○試しのゲームをして、行い方を知る。 ・4対4のゲーム(内1名キーパー役)とする。行い方を確かめるため、必要に応じてゲームを止めて説明する。 ・ゴールのない学校はコーンゴールを設置する。(コーンの幅は4~5m) ・「押す、つく」「足をかける」「足を高く上げる」「ぶつかる」などの反則につながる行為を確認する。 ・ボールがラインから出たら「キックイン」で始めることを確認する。</p> <p>○5年生、4対4のコート、ゴールの例 ・コートの広さ(コースロープやマーカー等を活用) 縦30~40m、横15~20m(グラウンドの広さも考慮する) ・ゴール(市販のコーンとコーンバーを活用) コーンバーは150cmと200cmのものがあ、目的に応じて活用</p> 	<p>【おおむね満足】 (観察)(ワークシート) 場や用具の安全に気を配っている。 【十分満足】 自分の安全とともに友達の安全にも気を配っている。 【努力を要する児童への手立て】 運動における安全の大切さや安全に気を配っていないときに考えられることについて話す。</p> <p>○ゴールの設置の例 ①200cmをコート中央に置く  ②150cmを両端に置く  (シュート機会を増やしたい、サイド攻撃を意識させたいときなど)</p> <p>【おおむね満足】 (観察)(ワークシート) 場の設定や用具の片付けなどで分担された役割を果たそうとしている。</p>
まとめ 7分	<p>6 本時の振り返り ・本時のめあてに沿って活動を振り返り、ペアや全体で共有させる。 ・自分の安全とともに友達の安全にも気を配っている児童を取り上げて称賛し、望ましい姿を全体に広げる。 ・ボールの扱いや試しのゲーム等、サッカーに関する感想を記入させ、数名に発表させる。 ・単元の学習で身に付けたいことや今単元で目指したいことや自己のめあてなどを書かせる。</p> <p>7 整理運動、用具の片付け、健康観察、集合、挨拶</p>	<p>【十分満足】 場の設定や用具の片付けなどで分担された役割を果たし、友達にも声をかけている。 【努力を要する児童への手立て】 分担を再度確認したり、責任もって取り組むことの大切さについて話したりする。</p>

<補足事項>

○サッカーの補助運動の例

(1) ドリブル（ジグザグドリブル）（ドリブルおに）

- ・ボールを優しく触る、「チョン チョン」などのキーワード使ってボールに慣れることを意識させる。また、ボール扱いはゆっくり（歩いて進む）からスタートし徐々に慣れさせる。
 - ・「ドリブルおに」は、1人1個のボールを持ち、ドリブルをする。ドリブルしながら、ほかの人のボールを外に蹴り出す。最後までボールを持っていた人が勝ち。
- ☆自分の足元に自分のボールを置きながら、相手のボールを狙いに行くことをきまりとする。

(2) トラップ・パス（パスアンドゴー）・・・向かい合っでのパス交換 （ナンバリングパス）・・・動きながらのパス交換

- ・ボールの止め方は、足の裏、足の内側があることを伝え、ボールを触る瞬間に力を抜くことを意識させる。
- ・「ナンバリングパス」は、ゼッケン番号順に名前を呼びながら移動して動きながらパスを受け、パスを出したら動くことを意識させ、必ずボールを1回止めてからパスをする。

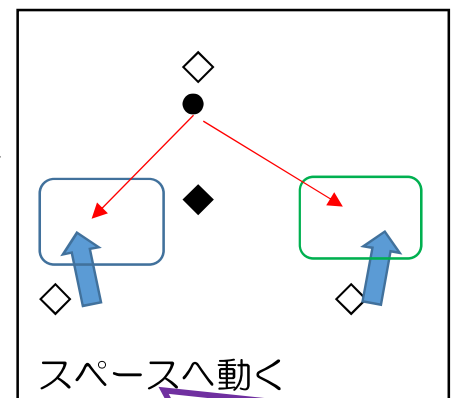
(3) 1対1のボールの取り合い

- ・ボールを持っているときは、相手と自分の間に体を入れてボールを守る、左右にボールを運んでとられないようにすることを意識させる。

(4) 3対1のパス回し（とりかご）

- ・ボールを持っていないときに、空いているスペースに動くことを意識させる。
- ・ボールを持っている人は、ボールを見てしまいがちになり周りが見えていないときがある。ボールを受ける人は、パスが欲しい場所やタイミングを「声とジェスチャー」で伝えることを意識させる。
- ・おに（守り役）は、「時間で交代」「とったら交代」などで、同じ人がずっと守備にならないように配慮する。
- ・パスをする人の間隔は、10m程度が望ましい。

◇・・・攻め役 ◆・・・守り役 ●・・・ボール



パスコースを2つ常に作れるように動くことが大切。出したらスペースに動くことを続ける練習。

(5) シュート練習（ドリブルから）（パスから）

- ・ボールの真横（もしくはやや斜め手前）に軸足を置くこと、軸足の向いた方向にボールが転がることを意識させる。
- ・キーパーの触られにくいゴールの隅を狙うことを意識させる。

○学校規模に応じた配慮点

【大規模校】

- ・合同体育でも対応できるように場や用具を増やす。（コート数、ボールやコーン、マーカーなど）

【小規模校】

- ・グループが組みにくい場合は、3、4学年の合同体育でグループ編成をする。

3. 本時案②【習得場面】(4時間目／8時間)

(1) 本時のねらい

- ・ボール保持者からボールを受けることができる場所に動くなどのボールを持たないときの動きによってゲームをすることができるようにする。

(2) 本時の評価規準

- ・ボール保持者からボールを受けることができる場所に動くなどのボールを持たないときの動きによってゲームをすることができる。【知識・技能】

(3) 学習過程

	○学習内容及び学習活動 ・指導上の留意点	評価規準及び評価方法
はじめ 10分	1 集合、挨拶、健康観察、準備運動 ・学校共通の運動を扱い、ポイントを意識するような声かけをする。 2 主運動につながる補助運動 ◎ドリブル（ジグザグドリブル）（ドリブルおに） ◎トラップ・パス（パスアンドゴー） ☆（ナンバリングパス） ◎1対1のボールの取り合い ◎3対1のパス回し ☆（とりかご） ◎シュート練習（ドリブルから）（パスから） ・上記の中から、その時間で必要なものを選択する。めあてに沿った練習をするのであれば、 ☆マークの練習は取り入れる。 ・全員がボール操作とボールを持たないときの動きに慣れるように、十分に時間を確保する。 3 本時のめあての評価規準の確認(場と用具の準備)	
	めあて： ボールを持たないときに、空いたスペースを見つけてパスをもらえる動きをしよう。	
	評価： ボール保持者からボールを受けることができる場所に動くなどのボールを持たないときの動きによってゲームをすることができる。【知識・技能】 ・前時までに扱った「ボールを持たないときの動き」の例示を基に自己の到達度を確認し、各自の課題とする。	
	<ボールを持たない動きの例> ・味方がボールを所持したら、すぐにボールを所持している味方から遠ざかる。 ・味方がボールを所持したら、すぐにディフェンスがない場所を見つけて移動する。 ・味方がボールを所持したら、すぐにボールより前に移動する。 ・味方がボールを所持したら、すぐにシュートしやすい場所に移動する。 そのほか、サイドチェンジやエンドラインまで進んだあとターンしてボールをもらいに行く動き、上記の動きを組み合わせた動き等が考えられる。	
なか 28分	4 ゲーム① ○基本のルールを確認し、ゲームを行う。 ・ペアチームで互いの課題を共有し、見合う視点にする。 ・必要に応じて一人一台端末を活用し、互いの動きを撮影させる。活用させる場合は、撮影の位置や置き場等について配慮する。 ・交代を行う際、時間を見てピブスの番号順で交代する、キーパー役は同じ人で固定しないなどチーム全員がゲームに参加できる配慮をする。 5 ゲーム①の振り返り ○ボールを持たない動きについて、チームやペアチームで見たことや映像を基に振り返り、ゲーム②につなげる。 ・ペアがボールに触っていないなくても、ボールを持たない動きを行っていたら認めることを伝える。必要に応じてチームで動きを確かめさせる。 6 ゲーム② ○ペアチーム同士での動画撮影、声かけをさせる。	【おおむね満足】(観察)(動画) ボール保持者からボールを受けることができる場所に動くなどのボールを持たないときの動きによってゲームをすることができる。 【十分満足】 声やジェスチャーを入れる等、よりボール保持者からボールを受けやすく動くなどのボールを持たないときの動きによってゲームをすることができる。 【努力を要する児童への手立て】 自分の課題を意識できていない児童には、①横や斜めに動く ②ボールをパスしたら動くことに焦点を当てて声かけをしていく。
まとめ 7分	7 本時の振り返り ・本時のめあてに沿って活動を振り返り、ペアや全体で共有させる。 ・ボールを持っていない児童を取り上げて称賛し、望ましい姿を全体に広げる。 ・授業全体の感想も記入させ、数名に発表させる。 8 整理運動、用具の片付け、集合、健康観察、挨拶	

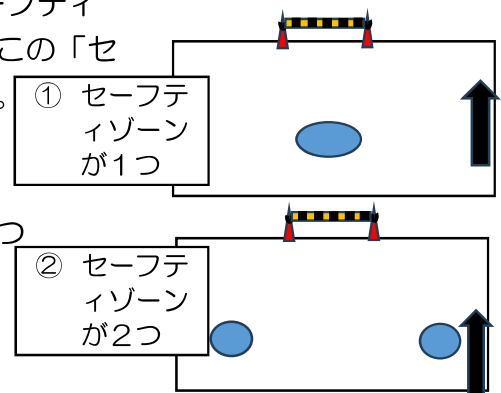
<補足事項>

○活動のルール（流れ）・場づくりの様子

【ゲームのルールの工夫例】 ※ゲームは原則4対4(うち1名キーパー役)で設定

(1) 攻め側のコートにセーフティゾーンを設ける。

- コート内にディフェンスからボールを取られない「セーフティゾーン」を設け、パスがつながりやすいルールにする。この「セーフティゾーン」のルールは事前に共通理解をしておく。
(ゾーン内利用時は1回5秒)
(コートが15×30mの場合…直径3m程度)
(サイド攻撃を意識させたいときは、ゾーンを狭く、2つに増やす等、広さや数は児童の実態等に応じて決める)



(2) 足の裏でボールを触っている（止めている）ときはボールを取ることはできない。

- 相手からボールを奪われない時間を設ける。足裏でボールを触っている（止めている）ときは相手から奪われないようにすることで、パスが通りやすいようにする。また、接近状態でのボールの奪い合いの機会を減らすことで安全面を考慮する。この時間のルールは共通理解をしておく。

(ルール利用時は1回5秒 その後は必ずパスかシュートをする)

(3) 「攻め専門プレイヤー」を設け、攻撃時の数的優位を設ける。

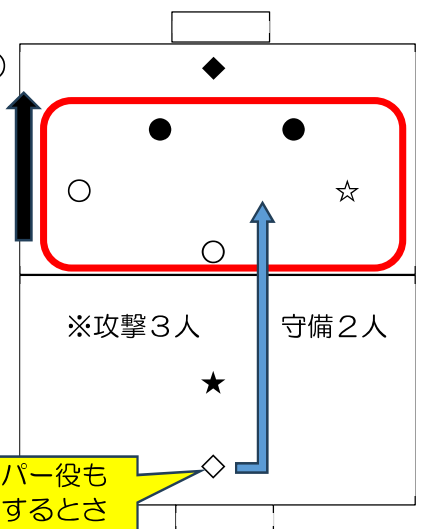
- 相手コートでしか動けない「攻め専門プレイヤー」を設ける。守備のために自陣コートに戻れないので、攻撃時は数的優位を作ることができる。

(右図参照) ☆★・・・攻め専門プレイヤー

○●・・・他のプレイヤー

◇◆・・・キーパー役（攻撃可能）

※このルールは本単元のめあてを達成しやすいルールである。



(4) シュートエリアを設ける。

- シュートエリアを設けることでロングシュートを制限し、パスまたはドリブルでボールを運ぶ必然性をつくる。

(5) 同じタイミングで交代する（キーパー役の交代も）。

- 時間で交代（1分～1分30秒）する。ピブスの番号順で交代する仕組みづくりを行う。
- 同じ児童が出続ける、または、キーパー役を続けることがないようにする。

○ ICT 活用の留意点

- 全員が同じアングルで撮影できるように撮影スペースを設定する。（フープやコーンなどで目印をする。）
- 運動の視点の話し合いができるように撮影する角度を配慮する。
- ペアチームを設定しゲームで撮影をし合うチームを決めておく。ゼッケン番号を決めペアも決めておく。個人の動きを中心に撮影をするときは効果的である。
- 運動場では ICT 機器の管理に心掛ける。（砂埃対策・・・手さげ袋やかごで対応する）

3. 本時案③【活用場面】(7時間目／8時間)

(1) 本時のねらい

- ・課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
- ・仲間の考えや取組を認めることができるようにする。

(2) 本時の評価規準

- ・課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。
- ・仲間の考えや取組を認めようとしている。

【思考・判断・表現】

【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 学習過程

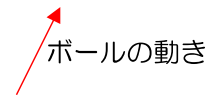
	学習内容及び学習活動 ◆指導上の留意点	評価規準及び評価方法
はじめ 10分	<p>1 集合、挨拶、健康観察、準備運動 ・学校共通の運動を扱い、ポイントを意識するような声かけをする。</p> <p>2 主運動につながる補強運動 ◎ドリブル（ジグザグドリブル）（ドリブルおに） ◎トラップ・パス（パスアンドゴー）（ナンバリングパス） ◎1対1のボールの取り合い ◎3対1のパス回し（とりかご） ◎シュート練習（ドリブルから）（パスから） ・チームの作戦に応じた練習をチームで選ばせる。 ・全員がボール操作とボールを持たないときの動きに慣れるように、十分に時間を確保する。</p> <p>3 本時のめあての評価規準の確認する(場と用具の準備)</p>	
	<p>評価：課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。【思考・判断・表現】 仲間の考えや取組を認めようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p>	
	<p>めあて：課題の解決のために自己や仲間の考えたことを友達に伝えたり、仲間と取組や考えを認めたりしよう。</p> <p>・チーム全員でボールをつなぎ、シュートするために必要な動き等は何かを考えて伝えたり、伝えられたことを認めたりすることが、自分やチームの課題の解決のために大切であることを知らせる。 ・前時のゲームで、チームの作戦に応じた自分の役割ができていたかを振り返り、自己の課題設定の視点にさせる。</p>	
なか 28分	<p>4 チーム作戦確認①とゲーム① ○チームでの作戦を確認し、ゲーム①を行う。 ・第4時で扱った(3)「攻め専門プレイヤー」のルールで行う場合とする。 ・これまでの扱った作戦から、各自でチームの特徴に合う作戦を選ぶ。その後チームで作戦会議を行い、どの作戦にするかを話し合い、決めさせる。</p> <p>【提示する作戦の例】(右図参照) ①走り込み、パス作戦 ②サイド攻撃作戦 ③逆サイドパス作戦 ④ロングパス作戦(攻め専門プレイヤーの有効活用)等</p> <p>・ペアチームで互いの作戦の動きができていたか、得点につながる動きができていたかという視点で見合わせ、チームに合った作戦かを伝えられるようにする。 ・必要に応じて一人一台端末を活用し、互いの動きを撮影させる。活用させる場合は、撮影の位置や置き場等について配慮する。</p> <p>5 ゲーム①の振り返りとチーム作戦確認② ○見合ったことや映像で作戦がチームに合っているかを振り返り、次のゲームの作戦や自己や仲間の動き方について話し合う。 ・「作戦の動きができていたか」「得点につながる動きができていたか」等の視点で話し合い、自分たちのチームの課題解決に合った作戦につながるようにする。 ・必要に応じてチームで動きを確かめさせる。</p> <p>6 ゲーム② ○作戦確認②で話し合ったことを意識して、ゲーム②を行う。 ・振り返りで出された内容を意識させて、ペアチームで動画の撮影をしたり、見て気付いたことを声かけさせたりする。</p>	<p>【おおむね満足】(観察)(シート) 仲間の考えや取組を認めようとしている。 【十分満足】 仲間の考えや取組のよさを言葉や身振りで伝えながら認めようとしている。 【努力を要する児童への手立て】 これまでの作戦を試した結果を振り返らせたり、作戦会議中に実際に試したりして互いの考えを受け入れやすくする。</p> <p>【おおむね満足】(観察)(動画) 課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 【十分満足】 課題の解決のために自己や仲間の考えたことを、ICT機器を活用したり、実際に動いたりしながら他者に詳しく伝えている。 【努力を要する児童への手立て】 空いたスペースへ動くこと等自分の課題を確認させたり、ボールを持たない動きの例を選ばせたりして伝えやすくする。</p>
まとめ 7分	<p>7 本時の振り返り ・本時のめあてに沿って活動を振り返り、ペアや全体で共有させる。 ・仲間の考えや取組のよさを言葉や身振りで伝えながら認めようとしている児童、課題の解決のために自己や仲間の考えたことを、ICT機器を活用したり、実際に動いたりしながら他者に詳しく伝えている児童を取り上げて称賛し、望ましい姿を全体に広げる。 ・授業に関する感想を記入させ、数名に発表させる。 (前時と本時のチーム作戦に対する自己の動き方) (次時のサッカー大会のゲームでの動き方をイメージさせる)</p> <p>8 整理運動、用具の片付け、集合、健康観察、挨拶</p>	

<補足事項>

○活動のルール（流れ）・場づくりの様子

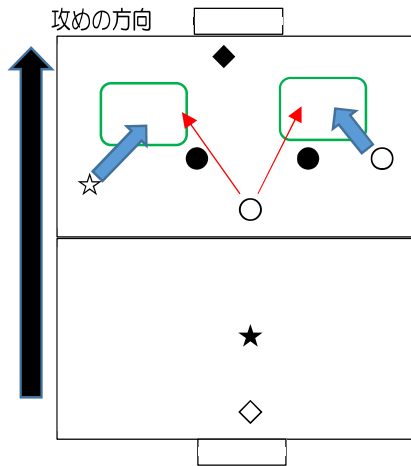
【チームの作戦の例】 ※第4時(3)「攻撃専門プレイヤー」のルールでの作戦例

☆★・・・攻め専門プレイヤー
 ○●・・・他のプレイヤー
 ◇◆・・・キーパー役（攻撃可能）



①走り込み・パス作戦

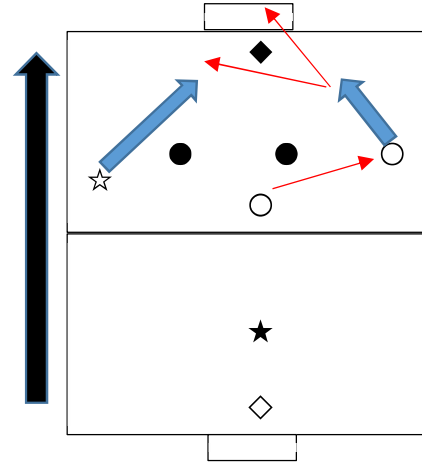
- 空いているスペースに走りこんでパスをする作戦。守備の後ろのスペースでもらうことを意識させるとよい。



※真ん中の○は、右サイドの○と左サイドの☆の両方のパスコースがでけるとよりよい。

②サイド攻撃作戦

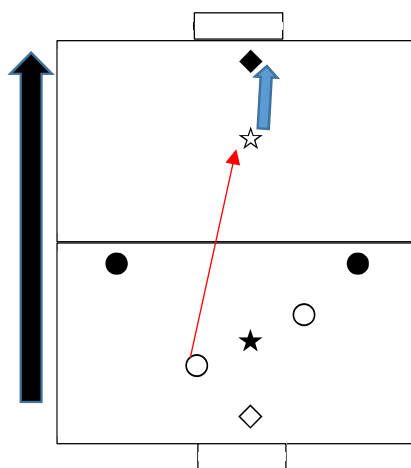
- ボールを持ったらサイドの味方にボールを渡しドリブル等で速くゴールに近づける作戦。守備の少ないサイドを使うと効果的。



※右サイドの○は、そのままシュートも狙えるし、左の☆にクロスボールも狙える。

③ロングパス作戦

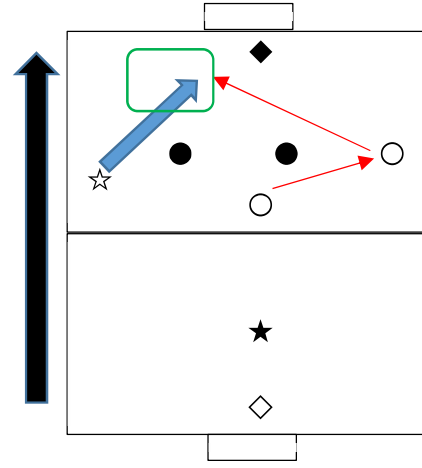
- 相手コートに残っている攻め専門プレイヤーの素早く渡し、速くゴールに近づける作戦。☆の準備の仕方が大切である。



※自陣でボールを持っているときに有効的な作戦。☆の人はパスコースを見つけて準備しておくとうい。

④逆サイドパス作戦

- 相手が片方のサイドに寄ったところで反対のサイドを素早く使う作戦。斜めの動き出しとパスコースが有効的である。



※右サイド○の反対サイド☆が斜めの動き出しをすることで反対のスペースを有効的に活用できる。

※他にも「ワンツープス作戦」等が考えられる。

3. 本時案④【まとめ場面】(8時間目／8時間)

(1) 本時のねらい

- ・自己やチームの特徴に応じた作戦を選ぶことができるようにする。

(2) 本時の評価規準

- ・自己やチームの特徴に応じた作戦を選んでいる。

【思考・判断・表現】

(3) 学習過程

	学習内容及び学習活動 ・指導上の留意点	評価規準及び評価方法
はじめ 10分	<p>1 集合、挨拶、健康観察、準備運動 ・学校共通の運動を扱い、ポイントを意識するような声かけをする。</p> <p>2 主運動につながる補強運動 ◎ドリブル（ジグザグドリブル）（ドリブルおに） ◎トラップ・パス（パスアンドゴー）（ナンバリングパス） ◎1対1のボールの取り合い ◎3対1のパス回し（とりかご） ◎シュート練習（ドリブルから）（パスから）</p> <p>・チームの作戦に応じた練習をチームで選ばせる。 ・全員がボール操作とボールを持たないときの動きに慣れるように、十分に時間を確保する。</p> <p>3 本時のめあての評価規準の確認する(場と用具の準備)</p>	
	<p>めあて：自己やチームの特徴に応じた作戦を選んで試し、サッカー大会を楽しもう。</p>	
	<p>評価：自己やチームの特徴に応じた作戦を選んでいる。 【思考・判断・表現】</p> <p>・これまでチームで考えたり、伝え合ったり、試したりしたことを基に、自己やチームの特徴を確かめ、それに応じた作戦を選んだり、工夫したりしながらサッカー大会の取り組むよう伝える。 ・前時のゲームで、チームの作戦に自分の役割ができていたかを振り返り、自己の課題設定の視点にさせる。</p>	
なか 28分	<p>4 チームタイム(作戦選びとチーム練習) ○チームの作戦を選び、その作戦に合ったチーム練習を行う。 ・第4時で扱った(3)「攻め専門プレイヤー」のルールで行う場合とする。 ・これまでの扱った作戦から、各自でチームの特徴に合う作戦を選ぶ。その後チームで作戦会議を行い、どの作戦にするかを話し合い、決めさせる。また、提示された作戦を基にアレンジする等、工夫してもよいことを知らせる。 ・作戦が決まったら、その作戦を意識してチーム練習に取り組ませる。</p> <p>【提示する作戦の例】(前時参照) ①走り込み、パス作戦 ②サイド攻撃作戦 ③逆サイドパス作戦 ④ロングパス作戦(攻め専門プレイヤーの有効活用) 等</p> <p>5 サッカー大会 ○これまで学習したことを生かして、みんなでサッカー大会を楽しむ。 ・これまで学習したことを想起させ、「みんなが楽しく取り組むことができるサッカー大会」にすることを確認する。 ・ペアチームで互いの作戦の動きができていたか、得点につながる動きができていたかという視点で見合わせ、チームに合った作戦を選ぶことができているかを伝えられるようにする。 ・必要に応じて1人1台端末を活用し、互いの動きを撮影させる。活用させる場合は、撮影の位置や置き場等について配慮する。 ・テンポよく進行し、ゲームを多くできるようにする。</p>	<p>【おおむね満足】(観察)(シート) 自己やチームの特徴に応じた作戦を選んでいる。</p> <p>【十分満足】 自分たちのチームの特徴を何度も確認し、より特徴に合った作戦を選んだり、特徴に合わせようと作戦を工夫したりしている。</p> <p>【努力を要する児童への手立て】 個別に自分が動きやすいと思う作戦を選んだり、考えさせたりする。</p>
まとめ 7分	<p>6 本時の振り返り ・本時のめあてに沿って活動を振り返り、ペアや全体で共有させる。また、単元全体についても振り返り、共有させる。 ・授業や単元全体に関する感想を記入させ、数名に発表させる。 ・自分たちのチームの特徴を何度も確認し、より特徴に合った作戦を選んだり、特徴に合わせようと作戦を工夫したりしている児童やチームを取り上げて称賛し、望ましい姿を全体に広げる。</p> <p>7 整理運動、用具の片付け、集合、健康観察、挨拶</p>	